



海外研修KYOのあけぼの会
会長 田中 鶴子

会員の皆さんには、お変わりなくお元気にご活躍のことと拝察申しあげます。

平成元年に創設されました当会の会員数も100名余りとなり、今年で10年の節目を迎えることとなりました。これも皆さまのお力添えと心より感謝申しあげる次第です。

さて、昨年は地球温暖化防止京都会議が行われました。世界規模で環境問題に取り組む「京都議定書」が採択され、地球温暖化防止に向けた歴史的な年となりました。この会議に訪れた外国人は6,000人以上ともいわれており、新装になった京都駅ビルはその歓迎の意を果たしたともいわれます。

また当会では、駅舎の完成と共に移転した京都府国際センターを会場にして「地球を感じる女性たち」というテーマでセミナーを開催し、合わせてクリスマス懇親会を催しました。多数の会員の皆さんにご参加いただき、久々に楽しい語らいの場が持てましたことは最高の喜びでございます。

第9回 KYOのあけぼのフェスティバルでは、会員皆さまの協力によってメインテーマ「環境とわたしたち」に沿って「地球をまもるのは私たちのこころです」をかけ、各パネラーより発表がありました。発表を通じて、私たち自身の暮らしを見直す時がきていることに気づき、意識を変えて小さなことから、また身の回りのことから行動しようと参加者一同が心を熱くしました。

女性としての感性を生かして地球的レベルで行動することが、21世紀に向けた環境保全への私たちの役割であると考えております。

京都の女性関係団体のリーダーとして、海外研修を通じて培った国際性を地域活動に還元していくたいと考えています。海外研修 KYOのあけぼの会がその発信基地となるよう皆さまの一層のご協力をお願いいたします。

▶1997年度総会及び研修会◀

日時 5月14日(水)午後1時30分
会場 京都府女性総合センター第3セミナー室

★総会

1. 開会
2. 会長あいさつ
3. 来賓祝辞
4. 議長選出
5. 議事

- ① 1996年度事業報告
- ② 1996年度収支決算報告
- ③ 1996年度会計監査報告
- ④ 会則の改正について
- ⑤ 役員選出
- ⑥ 1997年度事業計画(案)審議

※12月12日 研修会事業
※1月24日

KYOのあけぼのフェスティバル

- ⑦ 1997年度収支予算(案)審議
- ⑧ その他

6. 新入会員紹介(自己紹介)

7.閉会

★研修会(フォーラム)

テーマ 「発信、南十字星のきらめく国から」
パネラー 1996年度海外研修団員

表題「てるびつと」は、
京都府知事荒巻禎一様の
直筆で、インドネシア語
(京都府友好国)「あけぼ
の」の意味です。

表紙絵について
京都府に息づく豊かな自
然の美しさ、「花」した
れ桜、さが菊。「木」北
山杉。「鳥」オオミズナ
ギドリ。戸塚フランス
刺しゅうで表現したもの
です。

**10th Anniversary
~10年目の新しさ~**

Fresh Herb Tea

比叡山の中腹にあるハーブ園から、
毎朝届けられる有機栽培無農薬の
朝摘みフレッシュハーブと
独自の活水化システムで供給される
からだにやさしい
弱アルカリ性の水が生み出す、
ブライтонの爽やかなおもてなし。

Crown & Mida
ク・オ・ミディ(1F)

フレッシュハーブティー
¥900

京都プライトンホテル
〒602-8071 京都市上京区新町通中立売(御所西)
TEL:075-441-4411(代)

フォーラム 『まるい地球が好きです でも地球は困っています』

去る1月24日(土)京都府民総合交流プラザにおいて「KYOのあけぼのフェスティバル」が開催されました。京都商工会議所婦人会、海外研修 KYOのあけぼの会の2つの団体で環境問題についてのフォーラムを開催いたしました。

基調講演

「地球温暖化防止京都会議のあと」

講師 山口務 氏
(財)地球環境産業技術研究機構(RITE) 専務理事

京都会議で決まったことを実現し、実行していくために何をしなければならないかに重点をおいてお話をさせていただきます。

基本は、私たちがエネルギーを使う→CO₂が大気中に出て、増え続けていく→将来地球が温暖化するということです。京都会議のメインテーマは、大気中にCO₂を増やさないための対策は何かあるのか、ということでした。

京都議定書の採択は、温暖化防止に向けた歴史的な第一歩であります。この歴史的な第一歩という意味は、これまで増加の一途をたどってきた世界のCO₂排出を先進国だけではあるけれども、これから少なくとも右下がりにして行きましょうという、歴史的な転換の時期を迎えたんですね。京都議定書というのは、改定はあるもののすべての温暖化対策の基本となる大変意味のあるものだと思います。

このような対策を精一杯行つても、なかなかCO₂の量を減らすことはできないのが現状です。大事なのは国民各層の自主的行動の促進ということで、今日の会合も大変大事なことです。これからも国民運動を展開して、参加型、行動型の運動を盛りあげていきましょう。

今後の課題ですが、いわゆる京都自身が開催都市として今後とも環境モデル都市を目指していくと取り組みをはじめておられますので、是非実現をお願いしたいと思っています。

最後に私の提案ですが、京都会議の成功を踏まえて、5年後の2002年に京都で地球サミット開催するということを新たな目標を設定してはどうでしょうか。環境モデル都市をめざしての中身の充実を図り、私たちの取り組みも一段と力が入る。そういうきっかけにしてはいかがでしょうか。



Q&A

会場からこのような質問が出され、山口先生にお答えいただきました。

Q: 原子炉を20基作って解消にあたることについて一方では弊害があることをどう考えておられますか?

A: 大前提は安全性は不可欠ということ。安全性は最大限の優先順位で取り組み周辺の地域住民の方々に不安を与えないような対策が前提です。温排水の多少の影響でガンになるなどは考えられません。

Q: エルニーニョ現象とCO₂の関連はありますか?

A: 今のところはつきりしていません。これは世界的な海洋学者、気象学者等が取り組もうとしています。あと5年から10年で明らかになっていくだろうと思っています。



地球温暖化の実験やOHPを使ってのRITEでの研究内容の紹介(例えば、排出されたCO₂を燃料にして再利用する装置など)をして頂きました。

「空気」というあまりにも身近すぎるがゆえに、つい忘れてしまいがちな重要な問題を理論的に提示して頂き、「地球」的視野で日々の行動をすることの大切さを実感いたしました。

